

高師校区の農業

高師校区の南に位置する畑ヶ田地区ではさまざまな種類の野菜や果物が作られています。多くはスイカや白菜などですが、最近はミニトマト、リーフレタス、イチゴなど、同じ畑で何種類かの野菜を作っている農家の方もいます。

高台で広い土地にビニールハウスが並んでいます。



イチゴ作り (品種:あきひめ ベにほっぺ)

12月	農協から元親(元になる苗)がくばられる。
2月～4月	元親を大きく育て、苗をとる。
4月～5月	プランターに植える。
9月	苗を畑に植える。
12月～6月	収穫



高師校区の畑ヶ田地区ではイチゴを栽培している農家の方もいます。農家の方はおいしいイチゴを作るためにさまざまな研究をしてきました。

秋にイチゴを収穫するために夜冷処理という作業をします。冷蔵庫に苗を入れて、苗に春が来たと錯覚させ収穫を早める作業です。こうすることで、10月頃からイチゴの収穫ができるようになりました。また、従来の土耕栽培(土に苗を植え、イチゴを育てる栽培方法)は地面に苗を植えるため、腰が痛くなり、作業が大変でしたが、腰を曲げずに作業のできる、高設栽培の設備を新しくつくことで作業を少しでも楽になるよう改善されてきました。

イチゴの収穫の時期だけでなく、おいしいイチゴを作るために、土作りや摘花(実を大きくするために花の数を少なくすること)などたくさんの仕事があります。また苗が病気にかかることもあり、一年中気が抜けません。



広いハウスの中にはたくさんの苗があります



一つ一つの苗にたくさんのイチゴがなります



畑ヶ田で作られたイチゴは南部農協を介して岐阜県、福井県、神奈川県などへ出荷されます。

高師小学校 尾崎 司